

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要.....	2
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）.....	2
②新設組織の特色.....	2
(2) 人材需要の社会的な動向等.....	4
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析.....	4
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析.....	5
③新設組織の主な学生募集地域.....	6
④既設組織の定員充足の状況.....	6
(3) 学生確保の見通し.....	8
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	8
ア 既設組織における取組とその目標.....	8
イ 新組織における取組とその目標.....	10
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数.....	11
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）.....	12
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性.....	12
イ 競合校の入学志願動向等.....	13
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）.....	14
エ 学生納付金等の金額設定の理由.....	14
③先行事例分析.....	15
④学生確保に関するアンケート調査.....	15
⑤人材需要に関するアンケート調査等.....	17
(4) 新設組織の定員設定の理由.....	19

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

<表 1>心身健康科学科（通学課程）の概要

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科 (通学課程)	40	—	160	埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288

②新設組織の特色

養成する人材像、学位の分野を踏まえた新設組織の特色

【養成する人材像】

『こころ』『からだ』『文化・社会』の側面から、人間を科学的、学際的に理解し、デジタル技術を活用して心身ともに健康で豊かに暮らせる社会の構築を支援できる人材。

【学位の分野】

文学関係

心身健康科学科（通学課程）は、現代社会が抱える健康と福祉、医療の課題に対応するため、学際的で実践的な教育を提供する。特に、「ウェルビーイング (Well-being)」の概念を核に据え、心身健康科学とデジタル技術を駆使し、個人・社会のウェルビーイングを実現するためのリーダーとなる人材を育成する。本学科の特色は、以下の通りである。

(1) 心身健康科学とウェルビーイング・テクノロジーを基盤とした学び

本学科では、「こころ」と「からだ」、「文化・社会」の関連性から人間の健康や幸福を科学する学問（心身健康科学）の修得と AI・データサイエンスを活用したウェルビーイング・テクノロジー・スキルを体系的に学ぶ。ビッグデータ解析やウェアラブルデバイスを活用したデータの分析、Virtual Reality (VR)・Augmented Reality (AR) 等の Extended Reality (XR) 技術による遠隔ヘルスサポートなど、最先端のデジタル技術を体験できるカリキュラムを提供し、ヘルスプロモーションや予防医療分野で社会貢献できる力を養う。

(2) 地域コミュニティ・企業との連携による実践的教育

本学科では、地域コミュニティや企業と連携し、健康増進プロジェクトやウェルビーイング施策に参加する機会を提供する。社会課題の解決に取り組むことで、理論と実践を結

びつける力を養い、個人と社会の健康と幸福に貢献する人材を育成する。

(3) 学際的なアプローチによる4つの柱となる力の育成

本学科の教育プログラムは、生理学、心理学、健康科学、社会学、情報科学等を統合した学びを通じ、「課題発見・目標設定力 (Plan)」「行動力 (Do)」「分析・評価力 (Check)」「改善・実効力 (Action)」を育成する。多角的な視点から課題解決に取り組み、社会で実践的に活躍できる力を身につける。

(4) ポストSDGsとSociety 5.0を見据えた成長領域の視点

ウェルビーイングの概念は持続可能な開発目標 (SDGs) の次のステージとして国際的に注目されている。本学科では、国内外の動向を踏まえ、グローバルな視点でウェルビーイングを追求し、技術と社会を結びつける次世代リーダーを育成する。

新設組織と関連する既設組織

新設学科の設置に向けて、令和7 (2025) 年度募集より健康栄養学科、ヘルスフードサイエンス学科、心身健康科学科 (通信教育課程) の定員減を実施、令和8 (2026) 年度募集より看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の定員減を予定している。これは人間科学部を中心に大学の構造転換を図るもので、入学定員について健康栄養学科は40名減の40名 (収容定員160名)、ヘルスフードサイエンス学科は45名減の15名 (収容定員60名)、心身健康科学科 (通信教育課程) は250名減の250名 (収容定員1,000) ※編入学を含む、看護学科は30名減の60名 (収容定員240名)、リハビリテーション学科理学療法学専攻は10名減の40名 (収容定員160名) に変更する。

<表2> 既設学科の定員変更

既設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
人間総合科学大学 人間科学部 健康栄養学科	40	—	160	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288
人間総合科学大学 人間科学部 ヘルスフードサイエンス学科	15	—	60	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288
人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科 (通信教育課程)	250	※	1000	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288
人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科	60	—	240	埼玉県さいたま市岩槻区太田字新正寺曲輪354-3
人間総合科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科	40	—	160	埼玉県さいたま市岩槻区太田字新正寺曲輪354-3

理学療法専攻				
--------	--	--	--	--

※入学定員に編入学を含む

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

中央教育審議会が取りまとめた【資料1】「第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）」および内閣府【資料2】「第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）」において、「ウェルビーイング（Well-being）」は、社会の基盤を支える不可欠な概念として明示されている。ウェルビーイングとは、個人の心身の健康にとどまらず、社会全体の持続可能な発展を目指すものであり、その実現に貢献する専門職の必要性が高まっている。

全国的な視点では、デジタル技術や AI、ビッグデータの活用による科学技術の進展が社会の優先課題の一つとされ、それに対応できる高度なデータ分析能力と学際的な知識を備えた人材が求められている。「第6期科学技術・イノベーション基本計画」において提唱される「Society 5.0」の実現に向けて、テクノロジーを活用した新しい価値創造が重要視されており、これらの技術は心身の健康支援にも革新的なアプローチをもたらしている。心理学、医療、福祉分野を統合的に扱い、これらの技術を応用できる専門職の育成は喫緊の課題である。また、技術の発展とともに個人の健康に関するニーズが多様化しており、これに応える人材の養成が急務となっている。

地域的な観点では、人口減少や高齢化の進行に伴い、地方における心身の健康支援に対する新たなニーズが顕在化している。特に、高齢化が進む地域においては、住民の健康維持や生活の質向上を図るための取り組みが一層重要とされている。地域社会固有の課題に対応するには、地域の文化的・社会的背景を十分に理解し、それに基づく施策を立案できる専門職が必要である。こうした人材は、地域特有の問題解決と活性化においても中心的な役割を担うことが期待される。

加えて、企業や自治体においては、働き方改革やメンタルヘルス、健康経営の推進が急がれており、職場における心身の健康維持が、労働生産性や組織の持続的成長を左右する要因となっている。これに対応するため、データ分析や予測技術を活用し、組織の健康戦略を支援できる専門職の育成が必要不可欠である。

さらに、グローバル化の進展に伴い、多文化理解や社会的包摂を推進する人材への需要も高まっている。ウェルビーイングの実現には、すべての個人が社会の中で調和し、自らの潜在能力を最大限に発揮できる環境の整備が求められる。そのためには、多様な背景を持つ人々の健康と福祉を支え、社会全体の調和と成長に寄与する専門性を備えた人材が必

要である。

以上のように、「ウェルビーイング (Well-being)」の概念を核に据え、心身健康科学とデジタル技術を駆使し、個人・社会のウェルビーイングを実現するためのリーダーとなる人材が全国、地域または社会において必要とされている。心身健康科学科（通学課程）は「こころ」「からだ」「文化・社会」の3つの側面を統合する真の人間理解を基盤とし、AI・データサイエンスを融合させることで技術と人間性を両立できる人材の育成を目指す。変化の激しい社会の多様な課題に的確に応える専門知識と実践力を備えた人材の育成において、重要な役割を果たすものとする。

本学科を卒業した学生は、現代社会の多様なニーズに対応し、以下の分野で幅広く活躍することが期待される。

医療・ヘルスケア分野／心理・メンタルヘルス分野／スポーツ・フィットネス産業／教育・ウェルビーイングプログラム開発／IT・データサイエンス分野／公共機関・政策提言分野／ウェルビーイング関連企業／新規事業開発・スタートアップ支援分野／大学院進学

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

リクルート進学総研が文部科学省「学校基本調査」を元に行った18歳人口予測によると、開設年度である令和8（2026）年から10年間の全国の18歳人口は、＜表3＞のとおり1,092,664人から970,429人へ約12万2千人減少すると予測されている。本学への入学者が多い南関東（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）でも10年間で20,136人の減少が見込まれる。しかし、その割合は全国の18歳人口が10年間で11.2%減する予測に対し、南関東は6.8%減と比較的緩やかである。

また、南関東における大学進学率は平成26（2014）年から令和5（2023）年の10年間で56.7%から65.9%へ9.2ポイント上昇している。引き続き上昇傾向が期待できることから、将来、国内の18歳人口が減少する局面にあっても志願者数が著しく減少する可能性は低いと考える。【資料3】「リクルート進学総研マーケットレポート2023」

＜表3＞10年間の18歳人口予測（人）

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
全国	1,092,664	1,085,148	1,069,005	1,066,810	1,050,986	1,035,215	1,024,042	1,013,894	1,005,714	970,429
南関東	299,464	298,329	296,500	295,747	290,613	289,838	288,586	290,405	288,845	279,328

出典：株式会社リクルート リクルート進学総研マーケットレポート2023（2024年2月号）より本学作成

③新設組織の主な学生募集地域

心身健康科学科（通学課程）の主な学生募集地域は、既設学科への入学者の出身高校の所在地の割合が高い埼玉県、栃木県、茨城県、東京都、千葉県などを想定している。本学の令和6（2024）年度入学者の出身高校の所在地の上位5都道府県は、〈表4〉のとおりである。

〈表4〉人間総合科学大学令和6（2024）年度入学者の出身高校所在地上位5都県

	都道府県名	人数	構成比
1	埼玉県	101人	60.5%
2	栃木県	24人	14.4%
3	茨城県	16人	9.6%
4	東京都	14人	8.4%
5	千葉県	12人	7.2%
	全体	167人	100.0%

【別紙1】「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」の「出身高校の所在地県別の入学者数の構成比」と比較しても、全国的な傾向と近い。18歳人口予測に鑑みても、埼玉県を学生募集地域の重点地域とし、栃木県、茨城県、東京都、千葉県を主な学生募集地域とする設定は妥当である。

具体的な学生募集の目標として、本学科の各都県からの入学者数を、埼玉県25名、栃木県5名、茨城県3名、東京都2名、千葉県2名と設定する。残り3名を群馬県、神奈川県、長野県、福島県、新潟県及びその他の地域からの志願者で確保する計画とし、関東、甲信越、東北といった入学実績のある高等学校の所在地県に対し新設学科の案内を積極的に行う。

④既設組織の定員充足の状況

人間総合科学大学蓮田キャンパスでは人間科学部健康栄養学科、ヘルスフードサイエンス学科、心身健康科学科（通信教育課程）の3学科で教育を展開している。なお、岩槻キャンパスでは、保健医療学部看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻・義肢装具学専攻）の2学科で教育を展開している。

本学の既存学科の過去5年間の志願者、合格者、入学者数は【別紙2】「既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間)」のとおりであり、志願者数は減少の傾向を示している。特に直近1ヶ年度で見ると、全学科で入学定員数を下回る入学者数となった。この状況を鑑み、既設学科の定員減を計画し、大学全体として構造的に転換を図ることを視野に入れ

ている。

収容定員充足率 0.7 倍未満の学科

既設学科における令和 6（2024）年 5 月 1 日時点の収容定員充足状況は【別紙 2】のとおりであり、健康栄養学科、ヘルスフードサイエンス学科、心身健康科学科（通信教育課程）において 0.7 倍未満となっている。

健康栄養学科、ヘルスフードサイエンス学科の学問領域である家政学の志願者の減少幅は他と比べて大きい。日本私立学校振興・共済事業団が取りまとめた【資料 4】「令和 6（2024）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」の「学部系統別の動向（大学）」では、家政学の志願者数が令和 5（2023）年度 46,651 人から令和 6（2024）年度は 41,015 人に△5,636 人減少している。「学部系統別の動向 過去 5 ヶ年の推移（大学）」では令和 2（2020）年度と令和 6（2024）年度を比較して、家政学の志願倍率は 4.31 倍から 2.71 倍と 1.6 ポイント、定員充足率は 97.67%から 83.78%と 13.89 ポイント落ち込んでいる。他の学部系統と比較して、志願者減少の加速化と定員割れのリスクが高まっている。

食物学・栄養学を含む家政学は女性のキャリアの選択肢として一般的だったが、近年は女性の社会進出の進展および共働き世帯の増加により、家庭内労働に関する学問的知識の需要が相対的に低下している。また、女性にも理系やビジネス系などより多様な学問分野が開かれているため、専攻する人が減っている可能性がある。また、家政学で扱う領域の一部は環境学、情報学、経営学、薬学、農学など、他の学部・学科においても学べるようになり、家政学として独立した学問の志願者が減り、分散している可能性も考えられる。

心身健康科学科（通信教育課程）では、近年の社会人のリスクリング需要の短期化や競合する通信制大学の増加、民間教育サービスの台頭、学位取得ニーズの相対的な低下といった複数の社会変化に直面し、その結果として定員未充足が続いている現状にある。これらは学修形態の多様化や学修者ニーズの変化に伴う構造的な転換期と捉えている。現代は学修者がライフスタイルやキャリア目標に応じて最適な教育形態を主体的に選ぶ時代であり、本学では通学課程と通信教育課程を両立させ、多様な学びの場を提供することで、定員未充足に対応する方策を講じている。

本学は、新設組織の設置に向けて、令和 7（2025）年度募集より人間科学部の健康栄養学科、ヘルスフードサイエンス学科、心身健康科学科（通信教育課程）の定員減、令和 8（2026）年度募集より保健医療学部の看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の定員減を次の通り実施する。これにより入学定員の充足ができると考えている。

人間科学部（令和 7（2025）年度募集より）

健康栄養学科 定員減△40 入学定員 40（収容定員 160）

ヘルスフードサイエンス学科 定員減△45 入学定員 15（収容定員 60）

心身健康科学科（通信教育課程） 定員減△250 入学定員 250（収容定員 1,000）※
編入学を含む

保健医療学部（令和 8（2026）年度募集より）

看護学科 定員減△30 入学定員 60（収容定員 240）

リハビリテーション学科理学療法学専攻 定員減△10 入学定員 40（収容定員 160）

以上の通り、本学既設学科の定員充足状況と人間科学部および大学全体の構造転換の計画から、新設学科については、入学定員 40 名（収容定員 160 名）が合理的な定員設定と考える。

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

既設組織として人間科学部および保健医療学部における主な取組は、【別紙 3】「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」のとおりである。

1) オープンキャンパス

令和 5（2023）年度入試に向けて実施したオープンキャンパスで人間科学部を希望した来場者 323 名のうち、受験対象者は 236 名、うち受験者は 93 名、入学者が 91 名であった。令和 6（2024）年度入試では来場 280 名のうち、受験者対象者は 161 名、受験者 56 名、入学者 54 名であった。入学率は令和 5（2023）年度が 38.6%、令和 6（2024）年度が 33.5%であった。

同様に、保健医療学部では令和 5（2023）年度来場者 721 名のうち、受験対象者は 448 名、うち受験者は 168 名、入学者が 149 名、令和 6（2024）年度来場 565 名のうち、受験者対象者は 317 名、受験者 131 名、入学者 121 名であった。入学率は令和 5（2023）年度が 33.3%、令和 6（2024）年度が 38.2%であった。

本学の入学者はその多くがオープンキャンパスの参加を経由していることがわかっている。

2) 大学案内・募集要項等の資料配布

ホームページや進学媒体を通じた資料請求者および進学相談会等での資料送付希望者に大学案内、募集要項、入試ガイド、イベントちらし、学科情報リーフレット等を郵送する。

令和5(2023)年度入試では7,744件の送付を行った。その内、受験対象者は3,933名、138名が受験、113名が入学した。令和6(2024)年度入試では、7,768件の送付のうち、受験対象者は3,353名、122名が受験、106名が入学に繋がった。

資料請求者の入学率は2.9~3.2%と高くないが、興味喚起の起点としてあるいはオープンキャンパス等へのイベント参加を促すツールとなっている。

3) 大学説明会・進学相談会・ガイダンス・見学会等

関東を中心に進学相談会、会場ガイダンス、校内ガイダンス、出張授業、見学会、オンラインガイダンスに参加し、大学の特色・学科の優位性等について説明を行う。令和6(2024)年度入試に向けては、合わせて232回のイベントを行なった。【別紙3】に示した参加者数、受験者数、入学者の数値は個人情報がある場合に限るため参考値ではあるが、令和5(2023)年度入試と令和6(2024)年度入試を比較すると入学率は7.4%から11.3%と約4ポイント上昇している。オープンキャンパスや資料請求等とは異なり、本学への認知度が低い受験生に対しても直接アピールできる場であることから、受験者の獲得にむけて効果がある。

4) その他

・高校訪問の実施

認知度向上を目的に、本学の概要や学びの特徴の紹介に加え、募集に関する案内を行うため高校への訪問活動を実施している。訪問の際は、高校生に興味・関心を喚起するために、大学案内、募集要項、入試ガイド、イベントちらし、学科情報リーフレット等の配架・掲示依頼を行っている。

令和5(2023)年度入試・令和6(2024)年度入試に向けて、教員及び広報担当職員を中心とした体制で、関東を中心に既設組織への進学実績のある高校や新規指定校を中心に訪問を行った。令和5(2023)年度入試に向けて年316回、令和6(2024)年度入試に向けて246回訪問し、本学の特徴や高校別の本学受験状況の説明を行った。【資料5】

また本学の教育内容や取り組み、在学生・卒業生の近況などを報告するとともに、高校ごとの進路指導方針や志願傾向などについての意見聴取を行った。

・大学ホームページ、SNSでの情報発信

大学公式ホームページでは、建学の精神や3つのポリシーをはじめ、情報公開と大学の紹介を行なっている。受験生を対象としては、入試情報、募集要項を掲載するとともに、資料請求の申込受付、オープンキャンパス等イベントの告知と参加予約の受付を行っている。大学公式ホームページ全体のアクセスとしては、令和6(2024)年度入試に向けて(2023年3月~2024年2月)は総ユーザー数153,470の閲覧があった。【資料6】

大学公式ホームページ以外のWebでの広報活動として、本学ではSNS等を活用して積極

的に情報発信を行っている。YouTube については令和 2 (2020) 年 9 月から公式チャンネルを開設し、大学・学科の紹介、キャンパス案内、入試解説等、多様な動画コンテンツを配信している。SNS としては、受験生・在学生にユーザーが多い Instagram での配信に力を入れている。学生のキャンパスライフを写真や動画を交えて紹介し、閲覧数をあげる工夫をしたところ、フォロワー数が令和 5 (2023) 年 10 月から 1 年間で 257 人ほど増加している。【資料 7】

また、LINE 公式アカウントを開設して、主に受験生に向けた入試情報・イベントの告知の配信とチャット機能を利用した個別の進路相談として活用している。令和 6 (2024) 年度入試向けでは年間 529 件の問い合わせがあった。その他、X(Twitter)、TikTok も公式アカウントを開設している。

イ 新組織における取組とその目標

1) オープンキャンパス

令和 8 (2026) 年度入試に向けて、令和 7 (2025) 年 3 月からオープンキャンパスを実施する。蓮田キャンパスでは計 11 回 (3 月 23 日、4 月 27 日、5 月 11 日、5 月 25 日、6 月 8 日、6 月 22 日、7 月 13 日、7 月 21 日、8 月 9 日、8 月 24 日、9 月 21 日) の開催を予定している。その他、学園祭(11 月)、ひなまつり(2 月)のイベント (令和 6 (2024) 年度は約 3,600 人が来場) と同時開催の進路説明会が計画されている。既設学科において、オープンキャンパス参加の受験対象者に対する入学率が約 33~36%であることから、入学定員 40 名に対して合計 120 名以上の参加数を目標に、毎回の来場目標数を設定する。オープンキャンパスでは、大学紹介、学科説明、入試説明、模擬授業、在学生との交流、教職員との個別相談、キャンパスツアーなどを実施し、新設学科を PR していく。

部活動などでオープンキャンパス日に参加できない高校生へのフォローとして、夏休みの平日に個別オープンキャンパスを受け付ける予定である。

2) 大学案内・募集要項等の資料配布

令和 8 (2026) 年度入試に向けては 1 チャンネル進学媒体を増やし、資料請求数をアップさせ 8,000 件を目指す。大学案内とは別に新設学科の紹介リーフレットを作成し、既設学科志願者を含めて資料請求者全員に郵送することで認知を獲得していく。資料発送希望者には、定期的にオープンキャンパスの案内チラシを発送し、参加を促進する。

一方、大学案内、募集要項、入試ガイドなどはホームページ上でも閲覧できるようにし、受験生の利便性を図っている。

3) 大学説明会・進学相談会・ガイダンス・見学会等

令和 7 (2025) 年度の進学者を通じた会場型の大学説明会、進学相談会、ガイダンスへの参加は、新設学科の PR のため分野を広げて約 100 会場を目指して計画している。令和 6

(2024)年度の会場数は87であった。広報の職員が参加する対面型が中心であるが、資料頒布会として参加する会場も増やす予定である。

また、高等学校別の校内ガイダンスや出張授業、大学見学会なども積極的に受け入れ、受験対象者との接触を増やす方針である。

4) その他

・高校訪問の実施

学科設立の目的と概要の説明のため、教員、広報担当職員を中心とした既設学科の重点校および新規指定校への訪問以外に、エリアを広げ訪問代行業者を含めて全学的に増員拡充し、高校訪問を実施する。出張講義も含め年間 350 回以上を目標に、令和7年3月から高校への訪問を開始する。

・大学ホームページ、SNS での情報発信

大学公式ホームページでは、学科設置構想について周知するために、学びの特色、養成する人材像等を掲載した学科ページを令和6(2024)年12月に公開した。学科ページは公開以来延べ 885 ビュー以上(令和7(2025)年3月1日現在、学内アクセスを除く)の閲覧があった。さらに今後はページビュー数の他、アクティブユーザー数、平均閲覧時間の拡大を目指す。

従来からの SNS 等による情報発信に加え、学生目線、多様化する視聴者ニーズに即した動画コンテンツを充実させることで、登録者の増加を目指す。LINE 進学相談といったオンラインでの進路相談窓口も継続し、新設学科についてもきめ細かなフォローを行っていく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記イに示した取り組みを行うことにより、心身健康科学科(通学課程)の入学定員40名を確保する。

既設学科ではオープンキャンパス参加を経て入学する割合が高いため、同様に年11回のオープンキャンパスを開催し、高校訪問や大学説明会・進学相談会・ガイダンス・見学会等のイベントから積極的にオープンキャンパスへの参加を促進する広報活動を行う。前述したように、受験学年のオープンキャンパス参加数は120以上を目指す。

一方で、既設学科とは異なり志願者数の多い学問分野となるため、一般選抜や共通テスト利用選抜でのオープンキャンパスを経ない受験者数の確保を目指し、SNS での丁寧な情報発信やオンラインでの個別相談をより強化する。一般選抜と共通テスト利用選抜で80人の受験者数を目指す。

高校訪問では既設学科の入学実績より、エリアおよび学力層を拡大して実施する。埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県、東京都、千葉県など沿線を意識し、重点エリアである埼玉県の高校からは25名を確保するべく、特に高大連携協定締結校への丁寧な説明を行う。

このような取り組みのもと、入学定員である 40 名の入学者の確保を見込む。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校の選定理由

河合塾が提供する大学検索システム「Kei-Net」にて、学部系統が学校基本調査の学科系統分類表の中分類で人文・社会科学関係、人間科学関係にあたる「心理」「社会」「情報」「人間」で、所在地が学生募集地域で示した埼玉県、栃木県、茨城県、東京都、千葉県に群馬県、神奈川県を加えた一都六県の私立大学を検索すると、91 校が該当した（令和 6（2024）年 11 月時点）。その中から立地、定員規模、学力層の類似性と教育内容としてデータサイエンスを積極的に取り入れている点を考慮の上、次の通り競合校を選定した。

武蔵野大学	ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科	（東京都西東京市）
大正大学	人間学部	人間科学科	（東京都豊島区）
文教大学	人間科学部	人間科学科	（埼玉県越谷市）
埼玉工業大学	人間社会学部	心理学科	（埼玉県深谷市）
順天堂大学	健康データサイエンス学部	健康データサイエンス学科	（千葉県浦安市）

競合校との比較分析

心身健康科学科（通学課程）と上述の競合校の違いについて、教育内容と方法、入試（受験時期、入学手続時期との関係）、学生納付金、就職、取得できる資格を比較した。

【資料 8】「競合大学比較」

本学の優位性は次のとおりである。

1) 武蔵野大学ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科との比較

本学科と武蔵野大学のウェルビーイング学科は、学際的かつ実践的な教育は類似している。本学科は AI と人間性の両立に重きを置き、より科学的に、心身の健康科学と AI や XR などのウェルビーイング・テクノロジーを組み合わせた教育内容に優位性がある。学納金は同水準である。入試制度は総合型選抜での受験機会が豊富であり、目指せる資格も充実している。

2) 大正大学人間学部人間科学科との比較

本学科と大正大学の人間科学科は人間を心理学・社会学・身体科学を横断的に学ぶ教育内容に類似するものがある。大正大学の人間科学科に比べ、ポスト SDGs や Society 5.0 を

見据えた成長分野に対応するカリキュラムを備え、デジタル技術を活用した実践的教育を強みとする。目指せる資格にデータサイエンティスト検定や DX 検定など、IT やデータサイエンス系の選択肢が広い。

3) 文教大学人間科学部人間科学科との比較

文教大学の人間科学科は埼玉県内の大学である。心理学を基盤とするのに対し、本学科の学びは「からだ」の側面も含めた心身の健康科学であり、個人・社会のウェルビーイングの実現を目指した実践的教育という新規性において優位である。

4) 埼玉工業大学人間社会学部心理学科（ビジネス心理専攻）との比較

埼玉工業大学の心理学科は埼玉県内の大学である。心理学を中心とするのに対し、本学科は、心理学に加え、健康科学や AI・データサイエンスを組み合わせ、ウェルビーイング社会の実現を目指す点で学びの幅が広い。目指せる資格も IT パスポートや基本情報技術者試験など、デジタルスキルの修得を含む点で優位である。

5) 順天堂大学健康データサイエンス学科との比較

順天堂大学の健康データサイエンス学科がデータサイエンスに特化するのに対し、本学科は、AI・データサイエンスの時代にこそ必要な統合的な人間理解を基盤に、カリキュラムが編成されていることに優位性がある。学納金は順天堂大学より低い。本学科は学際的な学びで、想定される就職も医療・ヘルスケア、フィットネス産業、ウェルビーイング関連企業など選択肢が広いことも優位である。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校となる学科等の過去3年間の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）は<表5>のとおりである。

<表5> 競合校の過去3年間の入学志願状況（人）

競合大学・学科名	年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
武蔵野大学 ウェルビーイング学科 (2024年開設)	R4	-	-	-	-	-	-
	R5	-	-	-	-	-	-
	R6	80	1123	1024	245	90	112.5%
大正大学 人間科学科 (2024年開設)	R4	-	-	-	-	-	-
	R5	-	-	-	-	-	-
	R6	120	1037	967	469	108	90.0%
文教大学	R4	140	925	896	529	170	121.4%

人間科学科 ※1	R5	140	934	858	463	154	110.0%
	R6	140	887	725	465	167	119.3%
埼玉工業大学 心理学科	R4	50	321	309	272	※2	※2
	R5	50	244	237	201		
	R6	50	145	140	135	32	64.0%
順天堂大学 健康データサイエンス学科 (2023年開設)	R4	-	-	-	-	-	-
	R5	100	286	279	243	99	99.0%
	R6	100	509	480	188	111	111.0%

※1：学校推薦型選抜を含まず

※2：参考値として R3～R5 の入学者数 139、R3～R6 の収容定員充足率 85.5%

出典：旺文社 パスナビサイト (<https://passnavi.obunsha.co.jp/>)、各大学ホームページより本学作成

過去3年間の競合校の入学志願状況を分析するに、いずれも高水準の定員充足率を達成しており、同分野への安定的な志願需要が確認される。武蔵野大学ウェルビーイング学科は開設初年度に定員充足率 112.5%を達成し、新設学科への志願意欲が高いことを示している。

競合大学の堅調な定員充足状況および本学独自の教育内容や入試制度を踏まえれば、心身健康科学科（通学課程）は高い定員充足が期待でき、社会的需要に応える人材育成が実現し得るものである。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校のうち、大正大学人間科学科（令和6（2024）年度 定員充足率 90.0%）および埼玉工業大学心理学科（令和6（2024）年度 定員充足率 64.0%）は、定員充足率が 100%を下回る。

心身健康科学科（通学課程）は、「こころ」「からだ」「文化・社会」を統合的に学ぶ学際的なカリキュラムと、デジタル技術を活用した個人・社会のウェルビーイングの実現を目指す時代に求められる学際的な新しい学科で、同様の教育内容の大学はここ数年間に開設している。埼玉県内ではウェルビーイングを中心に据えて学べる大学は他になく、優位性を有する。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学科における入学金、授業料等<表6>は、私立大学として継続的な学校運営を行うにあたり必要な財務計画及び保護者等への負担とならないよう十分に配慮し、同学部の既設学科と同額に設定した。

競合校とした大学の該当学科の比較は<表6>のとおりで、本学科は学際的な教育内容の競合校と比較すると同程度、本学科の学生納付金は妥当な金額設定であり、学生確保に

支障を来すものではないと判断している。

<表6> 令和6(2024)年度入学生 学生納付金比較 (円)

競合大学・学科名	入学金	授業料	実習費等	施設費等	初年度合計	2年次以降	4年間総計
人間総合科学大学 心身健康科学科(通学課程)	300,000	950,000	50,000	250,000	1,550,000	1,250,000	5,300,000
武蔵野大学 ウェルビーイング学科	180,000	1,020,000	-	275,000	1,475,000	1,295,000	5,360,000
大正大学 人間科学科	200,000	950,000	-	250,000	1,400,000	1,200,000	5,000,000
文教大学 人間科学科	280,000	790,000	-	270,000	1,340,000	1,060,000	4,520,000
埼玉工業大学 心理学科	220,000	765,000	50,000	270,000	1,255,000	1,085,000	4,510,000
順天堂大学 健康データサイエンス学科	200,000	1,000,000	100,000	300,000	1,600,000	1,400,000	5,800,000

出典：各大学ホームページより本学作成

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

学生確保の見通しの調査結果

心身健康科学科（通学課程）の設置にあたり、同学科への入学意向を把握するため、令和8（2026）年度の開設時に入学対象となる高校2年生を対象に進学受容性調査を実施し、本学の学生確保の見通しについて定量的に確認した。調査概要は以下の通りである。（調査対象の選定条件はレポートに記載）【資料9】「人間総合科学大学 心身健康科学科 通学課程（仮称：設置構想中） 設置に関するニーズ調査結果報告書（高校生）」

【調査期間】

- ・高等学校への依頼による調査
令和6(2024)年12月1日～令和7(2025)年1月28日
- ・オープンキャンパス等説明会参加者及び資料請求者への調査
令和6(2024)年12月1日～令和7(2025)年1月
- ・WEBインターネット調査（関東在住の高校2年生対象）
令和6(2024)年11月～12月

【調査対象・方法】

高等学校に在籍する高校2年生を対象とし、高等学校及び人間総合科学大学人間科学部オープンキャンパス等の説明会参加者、資料請求者にアンケートを依頼した。回答方法は質問用紙もしくはWEB回答フォームを利用した。WEBインターネット調査について

は、関東在住の高校2年生を対象に、回答者の属性管理等について一定の品質が保たれているLINEアンケートパネルを利用し調査を実施した。

【有効回答数】

1,538件

【調査実施機関】

株式会社ブレインアカデミー データサイエンスセンター

○興味のある学問分野(複数回答)

アンケートで、高等学校卒業後の進路に「大学」且つ設置者に「私立」と回答した761件のうち、心身健康科学科(通学課程)に関連する学問分野(人間科学、その他(心身健康科学科・心理学・情報学))へ回答した252件について集計して分析を行った。

○特色に対する関心(複数回答可)

心身健康科学科(通学課程)に関連する学問分野(人間科学、その他(心身健康科学、心理学、情報学))に関心を有する252件を対象に、関心が持てる学科の特色について尋ねたところ、コアとなる人間理解と心身の健康に対する関心が半数を超え55.6%であった。

「こころ、からだ、環境・社会のつながりから人間の本質を理解し、心身の健康を追求する」140(55.6%)

「AIやVRを活用した健康ケアの技術を専用のスタジオ(「デジタル・ウェルビーイング・スタジオ(仮称)」)で学ぶ」73(29.0%)

「少人数での授業や大学外での調査実習など実践的な学びが豊富」89(35.3%)

「ウェルビーイング(よりよく生きるための在り方)」の実現や健康の維持・増進に貢献している企業や団体に活躍できる」44(17.5%)

「データや学問の体系的な知識を活用した分析力とこれまでの枠組みにとらわれない自由な発想力を同時に身につける」78(31.0%)

○受験意向と入学意向

心身健康科学科(通学課程)の受験意向として、252名のうち「第一志望として受験する」と回答したのは46名(18.3%)であり、「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を合計した「受験する」は、125名(49.6%)であった。

<表7> 受験意向

件数 n	(252)	割合
第一志望として受験する	46	18.3%
第二志望として受験する	14	5.6%

第三志望以降として受験する	65	25.8%
受験しない	127	50.4%

心身健康科学科（通学課程）の入学意向にて「入学する」と回答したものは46名であった。「第一志望で受験する」「第二志望で受験する」「第三志望以降として受験する」とのクロス集計をしたところ、「第一志望として受験する」「入学する」の回答は入学定員を超える46名であった。

<表8> 受験意向と入学意向とのクロス集計（人）

	第一志望として 受験する	第二志望として 受験する	第三志望以降と して受験する
入学する	46	0	1
志望順位が上位の他の志望校が 不合格の場合に入学する	0	14	61
入学しない	0	0	3

以上のとおり、関東を中心とした、心身健康科学科（通学課程）への入学意向調査において、学生確保が十分に行える回答を得た。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

心身健康科学科（通学課程）の設置にあたり、同学科への人材需要を把握するため、就職先として想定される企業・団体等に対して人材採用の受容性調査を行った。調査概要は以下の通りである。【資料10】「人間総合科学大学 心身健康科学科 通学課程（仮称：構想中） 設置に関するニーズ調査結果報告書（企業）」

<p>【調査期間】 令和6(2024)年11月18日～令和7(2025)年2月14日</p> <p>【調査対象・方法】 就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者等を対象として依頼状を送付し、オンライン回答フォームにて回収した。</p> <p>【有効回答数】 36件</p> <p>【調査実施機関】 株式会社ブレインアカデミー データサイエンスセンター</p>

○業種

今回の調査に回答のあった企業・団体の業種は、「他事業所サービス業」が52.8%（19社）と最も多かった。次いで「対個人サービス業」30.6%（11社）、「情報通信業」およ

び「医療・福祉業」がともに 16.7%（6社）で割合が高かった。

なお、回答者は 86.1%（31社）が人事・採用担当者であり、採用意向を確認するにあたって問題ないと判断する。

○新卒者を採用する際に重視する点(複数回答)

今回の調査に回答により、心身健康科学科（通学課程）のニーズが高いと回答した企業・団体の採用する際に重視する点は、「コミュニケーション能力」「協調性」「課題解決能力」「責任感」「主体性」「ストレス耐性」「ホスピタリティマインド」「協調性」「柔軟性・素直さ」「実践力」の順で上位であった。

○現在の人材の過不足状況

今回の調査に回答のあった企業・団体の従業員数、職員数の規模は「～50人」が 25.0%（9社）、「51～100人」が 36.1%（13社）、「101～499人」が 27.8%（10社）「1000人以上」が 11.1%（4社）であった。回答のあった企業・団体の人材の過不足状況について、「非常に不足」と「不足」で 80.5%（29社）を占めた。

○心身健康科学科（通学課程）が養成する人材の社会的ニーズ

本学科が養成する人材の社会的ニーズについて「ニーズは高い」（33.3%）、「どちらかといえばニーズは高い」（66.7%）と合わせて 100%にあたる 36 の企業・団体から回答があった。このうち、「採用したい」は 19 の企業・団体で 52.8%、「採用を検討したい」が 8 の企業・団体で 22.2%であり、人材の需要は十分に高い。

<表 9> 養成する人材の社会的ニーズ

全体 n	(36)	割合
ニーズは高い	12	33.3%
どちらかといえばニーズは高い	24	66.7%
どちらかといえばニーズが低い	0	0.0%
ニーズが低い	0	0.0%

○採用想定人数

「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 27 の企業・団体において、採用想定人数を尋ねたところ、「採用したい」と回答した 19 の企業・団体では 64 名、「採用を検討したい」と回答した 8 の企業・団体では 11 名の採用想定人数となった。これは入学定員の約 1.9 倍となっている。

<表 10>採用想定人数

全体 n	(27)	採用想定人数
採用したい	19	64
採用を検討したい	8	11

以上のとおり、心身健康科学科（通学課程）への人材需要調査において十分な回答を得た。

なお、受容性調査における自由記述において「企業の運営において、ウェルビーイングを意識したマネジメントが求められています。その観点で、心身ともに健全なことが、ウェルビーイングの大前提です。貴学におかれては、社会、組織のウェルビーイングの実現に貢献できる人材の輩出を期待するものです。」などの意見があった。

（４）新設組織の定員設定の理由

心身健康科学科（通学課程）は、学生確保の見通しおよび人材需要を総合的に勘案し、定員を設定するものである。全国的な18歳人口は減少傾向にあるものの、同分野における他大学の志願動向は安定した定員充足率を維持しており、高い進学ニーズが確認できる。また、本学は、ポストSDGsおよびSociety 5.0を見据えた学際的かつ実践的な教育を特色とし、ウェルビーイング・テクノロジーやデータサイエンスを基盤とする教育内容により、多様な志願者層を惹きつける。

本学は、既設の学科で実績のあるオープンキャンパス、大学案内の発送、進学相談会および高校訪問、SNSでの情報発信等の広報活動を新設学科においても展開する。高校2年生対象の進学意向調査では、第一志望者46名を含む十分な入学見込み者を確認している。この結果、安定した受験者および入学者を確保できる見込みである。

以上の分析および実績に基づき、新設学科は確実な定員充足が見込まれ、定員40名は合理的かつ妥当な設定であると判断する。